

「互近助(ごきんじょ)の心」で、住み続けたいまちづくりの取組

優秀賞

コミュニティ協議会「まちづくり昭島北」(昭島市)

【経 緯】

まちづくり昭島北は、13 年前に地域の生活環境改善及び安全で安心なまちを目指し結成したコミュニティ協議会である。10 階～15 階建てのマンション 3,350 世帯 6,900 人が居住する地域で、5 つの自治会、3 つの管理組合、店舗会の皆様と共に活動している。12 年間継続している近隣の中学校との合同防災訓練も「新型コロナウイルス」感染症拡大の時期も中止とせず、訓練内容を工夫しながら毎年全校生徒と一緒に地域の防災力向上を目指して、実施している。

【活動内容】

① “防災の担い手”の中学校生徒との安否確認を中心とした防災訓練を継続

- ・多くの建物が、入居から 40 年以上が経過し住民の半数以上が 65 歳を超え超高齢社会となった。
- ・防災の担い手づくりで、近隣の中学校と平成 25 年から毎年 9 月に合同開催
- ・当日は地域で住民と一緒に、住民の安否確認をはじめ各種訓練を自治会別に取組んでいる。
- ・生徒には随時「防災教室」を開催し地域の役員から合同開催の必要性を伝えている。
- ・生徒の炊出訓練として、地域の夏祭り際にはカレーライスを調理から販売まで担当している。

② 被災地を訪問し、震災・減災の取り組みを学び、活かす

- ・平成 29 年から神戸・加古川・福島・宮城・岩手の被災地を役員で訪問。また平成 31 年には地域の皆様と福島を訪問し飯舘村・相馬市・福島第 2 原発周辺の関連施設の視察を実施。被災地にて現場の声を直接聴き、復興への取組等を学び、それらを地域防災の取り組みに具体的に活かしている。

③ 平時は見守り、災害時は安否確認の「防災隣組活動」の継続

- ・平成 26 年 4 月に東京都防災隣組の認定(No.03032)を受け、毎年防災訓練を中心に防災隣組活動を継続して、超高齢社会におけるコミュニティのつながりをつくりだす一助となっている。
- ・防災講演会に参加と共に、活動を継続するために、独自に防災講演会を開催し隣組役員の士気の高揚と継続に努め、本年は 10 年の節目として 8 月に防災講演会を市民会館にて開催した。

④ 東日本大震災で体験したことを風化させないために、3.11「まち歩き」を毎年実施

- ・平成 26 年から毎年 3 月 11 日には、東日本大震災での各種の体験、自助の備えが一番大切なことを風化させない為に“東日本大震災 3.11 を忘れない「まち歩き」”を毎年実施している。周辺地域の施設を回る「まち歩き」後に防災の講演、参加者による日頃の防災の備えについての話し合い、最後に発災時間に黙とうをしている。(参加者約 60 人)。



棟別の安否確認報告



中学生とで全住戸の安否確認



各地の被災地訪問(神戸市長田町)



「3.11 まち歩き」で消防署を訪問